

日本が日本で在り続けるために、日本人が日本人で在り続けるために、我々日本の中小企業の社長は、何を考え、何を抛り所に、何を実践躬行すればいいのでしょうか。

そもそも我々は、何時、何処で、何を喪失してしまったのでしょうか。それらを明確にして、今こそ、未来に向かって、正々堂々と歩み出すことが、我々草莽(志ある民草)の最大の使命ではないでしょうか。

「公」を喪失したことが、先ず一番大きな問題だろうと思います。

欧米の亜細亜に対する植民地化を防ぎ、亜細亜の民を解放するという、大東亜戦争の開戦に至った高貴なる目的が、敗戦により全く逆転した「侵略戦争」という、真実を隠し犯罪国家という汚名を着せられ、自信と誇りを根底から覆されたのです。

それが敗戦国の厳しい現実であり、周到な米国の戦後支配の実態だったのです。

日本は我慢に我慢を重ね、もうこれ以上耐えられないと、開戦し、最終的には「特攻」という手段まで動員しました。これには、欧米も肝を冷やしたと聞きます。

この屈強な日本人を、二度と再び立ち上がれないようにするには、どうすればいいか。米国のGHQは、「WGIP」で、日本精神を根本から崩壊させたのです。

また、主権国日本が制定すべき「日本国憲法」を、支配国が押し付けて今日まで、後生大事に守っているのが、現実の日本の姿なのです。

吉田茂総理は、経済的発展を主眼に、日本人としての誇りと自信を捨て去ることにGHQと同意したのです。そして、「私」の豊かさや幸福を中心にして、「公」も「矜持」も忘却の彼方に置き去ってしまったのです。

戦後八十年という、途轍もない時間が過ぎましたが、漸くこれではダメだ、正義はどこにあるのか、「道義の国」日本はどこに行ったのか、と考える社長が鬱勃と出てきたのです。

「そして二〇五〇年、そのとき列国は日本の底力を認めざるを得なくなるだろう」と、碩学森信三先生は、平成四年(一九九二)に述べておられます。まさに慧眼と、改めて尊敬の念を深くします。

先月で公的資格・社会的地位も、お上にお返しした身の私は自由自在、後は、これからの日本を支えてくれる若い人たちに、二〇五〇年に向かって、輝かしい日本を創り、日本人としての誇りと自信を取り戻し、素晴らしい人生を歩んでもらうお手伝いが出来ればと願っています。

こういう私自身若い頃は、新左翼の学生運動にのめり込み、完全にコミンテルンに洗脳されていたのです。幾たびかの変遷を経て、漸く皇国史観・日本の本質を知ることができ、今日に至りました。是非、日本の紐帯というべき皇室を尊崇し、世界を正しい方向に導く、日本にして参りましょう。

今月のポイント

二〇五〇年に向かい歩みを

進めていこう。

